

日本民家園 花便り 10月号 (2)

～暮らしと植物～



ゲンノショウコ 現の証拠 正面入口斜面
「医者いらず」の別名をもつゲンノショウコは、整腸生薬として古くから日本人の間で親しまれてきた三大民間薬草の一つです。しかしトリカブトなど似たような葉の毒草があるので、素人判断の採取は危険です。



アザミ 薊 三澤家裏ほか
アザミはスコットランドの国花。その棘が外敵から国を守ったそうです。東北地方や長野県では若葉や根を山菜として食し、味は上等で刺身より美味しいとか。アザミの種類にもよりますが、、、



アイ 藍 佐々木家花壇
飛鳥・奈良時代の藍染は、「摺染法」や「沈殿法」といわれています。江戸時代になると葉を発酵させる「すくも法」が主流となりました。そのほか、手軽な「生葉染め法」もあります。



ヒヨドリバナ 鶯花 山田家ほか
長距離を移動することで知られる蝶アサギマダラは、秋にはヒヨドリバナなどキク科の植物で吸蜜します。その植物に含まれるフェロモンの原料となる成分を摂取するためだと考えられています。



シモバシラ 霜柱 木小屋下
シモバシラの茎は、冬になると枯れた茎の根元に霜柱のような氷の結晶ができます。同じような現象は、カシワバハグマでも起こるそうです。園内にはカシワバハグマも自生しているので、冬には観察できるでしょう。